

公共用水域での死魚事例

平成15年11月から16年1月にかけて、比謝川の一部の水域でティラピアなどの魚の多量死が連続して発生しました。その原因として、河川水及び魚体内から検出されたクレゾール、ナフタリンによる中毒が推定されていますが、発生源については不明です。比謝川は水道水源としても重要であることから、地域を管轄する中部福祉保健所や関係機関は、監視体制の強化や地域住民への水質保全に対する意識を高めるために住民との合同調査などを実施して、新たな死魚事例の発生防止を図っています。



県内の公共用水域での死魚事例の概要などは以下のとおりです。

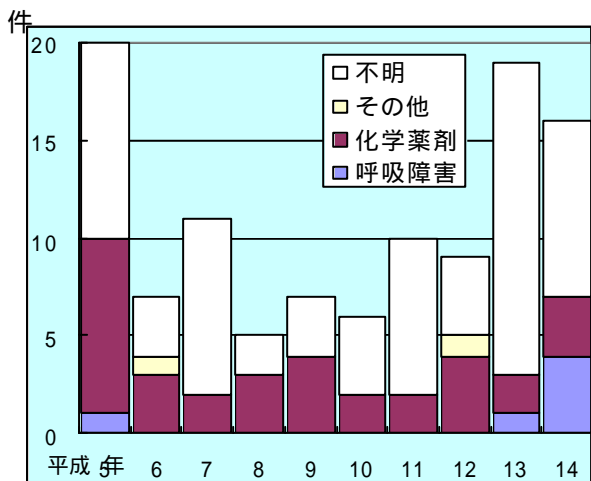
過去10年間の発生状況

平成5年度から14年度までの発生件数は110件で、死因としては化学薬剤によるものが34件(31%)、不明が68件(62%)となっています(図)。

水域別に見ると、都市部及びその周辺を流れる河川で多く発生しており、人間活動の影響を受けていることが示唆されます(表)。

死魚事例の発生原因

- (1) 農薬などの化学薬剤。
- (2) 生活排水などの流入による有機物の増加に伴



過去10年間の死魚事例の発生件数と内訳

比謝川水域での魚の多量死

- う溶存酸素の減少、アンモニア性窒素の増加。
- (3) 低水温、高水温。
- (4) その他。

予防対策

死魚事例の発生を少なくするためには健全な河川環境を維持しなければなりません。そのため次のようなことに配慮し、汚濁原因物質が河川に流入することを防止する必要があります。

- 農薬など化学薬剤の使用方法的適正化。
- 生活排水などの適正な処理。
- ゴミなどの適正な処理。

また死魚事例が発生した場合その原因究明を図るために速やかに調査を行い、その後の対策(例：農薬使用者への指導など)を行います。発生から時間がたつにつれて原因究明は難しくなります。皆さんの周囲で魚がたくさん死んでいるのを見かけたら、直ちに保健所、警察署などに連絡して下さい。(水質室)

水域	名	件数
国場川		14
比謝川		6
久茂地川		6
安里川		5
我部祖河川		5
天願川		4
小湾川		4
其他河川		59
海域		7

水域別の死魚事例発生件数

発行 沖縄県衛生環境研究所
 〒901-1202 大里村字大里2085
 TEL(098)945-0781
 FAX(098)945-9366